

# NAGOYAアカリナイト「アカリのアカデミー」を振り返って ～LEDを用いた地域・産業の活性化～

公益財団法人中部圏社会経済研究所  
企画調査部部长 青木 秀樹

## 1. はじめに

当財団は、名古屋で生まれたともいえるLEDを地域活性化や産業振興に結び付けたいと考え、2010年度から3年間、名古屋市栄地区にある久屋大通公園において「アカリのアカデミー」事業に取り組んできた。本稿ではその取り組みを総括的に振り返る。

## 2. 経緯

### (1) ビジネスプロデューサー養成講座

「アカリのアカデミー」事業の原点は2006年度に遡る。当財団の前々身である財団法人中部産業活性化センターが実施していた「ビジネスプロデューサー養成講座」から生まれたアイデアがその始まりである。「ビジネスプロデューサー養成講座」は、企業の主に新規事業の担当者を対象に、システム・インテグレーション株式会社の多喜義彦代表取締役が講師を務め、合宿を含む研修を通算で4日間行い、その中で企業連携（Field Alliance）の有用性について学ぶものである。講座では参加者をグループに分けたうえでグループを仮想企業として、実際の商材や事業をモチーフに、新たなビジネスモデルの構築を体験する。その講座の第1期（2006年10月～12月）において、以下の3つのテーマが出された。

- 旅行会社の顧客をターゲットとしたレディースリフレッシュ事業
- 街路灯（明かり）ビジネスによる街の活性化事業
- 柔軟に生産ラインを変更できる倉庫で、ものづくり

この中で、実現の可能性がある、公共性が高いと判断された「街路灯（明かり）ビジネスによる街の活性化事業」について、その後、本格的な実現可能性調査を行うこととなった。

### (2) あかりビジネスによる産業活性化検討

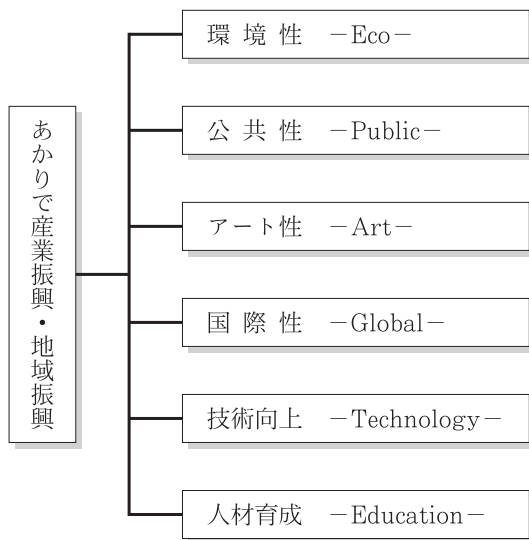
2007年度には「あかりビジネス検討会」を設置し、あかりビジネスによる産業活性化について、事業案を検討した。

その基本的な考え方は、「ものづくりが盛んな中部・名古屋の中心『栄周辺』をステージに、世界で初めての『明かりのビジネスショー』である『AkarISM Walk & Wave』を開催することにより、あかり（光全般）に関する技術の発展と人材育成、あかりを通じた産業振興・あかりを通じたまちづくりに寄与することを目的とする。」とした。

また、この事業の核となる企画「AkarISM Walk & Wave」については、「街の景観づくり」、「イベント・お祭り」、「地域産業のPR」の3つの施策を複合的に実施することとし、中部の伝統産業の「あかり」に「エコ」を融合させて、単に電飾を多用するだけではないイルミネーションイベントがイメージされていた。

基本コンセプトは「あかりで産業振興・地域振興」であり、「環境性」、「公共性」、「アート性」、「国際性」、「技術向上」、「人材育成」の6つの方針から実施内容を検討することとしていた。開催時期は11月下旬から12月下旬のクリスマスシーズンとし、会場には名古屋市栄の中心にある久屋大通公園が選ばれた。

<基本コンセプト>



が生み出され、光の三原色である赤、緑、青のLEDが全て揃い、白色LEDを作ることが可能になった。LEDが日常照明器具への大きな一歩を踏み出したのである。現在、照明器具の市場を賑わせているLEDは赤崎教授、豊田合成株式会社の技術なくしては実現できなかったものであり（赤崎教授の業績の一端は名古屋大学赤崎記念研究館でも見ることができる）、「LED発祥の地は名古屋」といっても過言ではない。

このことを踏まえ、あかりビジネス検討会では施策に「あかり新技術」の要素を加え、「最先端あかり技術の情報発信」、「街の景観づくり」、「イベント・お祭り」、「地域産業のPR」の4つの施策を定めた。

(3) あかり新技術=LEDとの出会い

2008年3月、あかりビジネス検討会にM&Oデザイン事務所の落合勉代表をお招きし、「21世紀のAkaliと日本人」という講演をしていただいた。その中で、21世紀の主要光源はLED、有機ELであると紹介され、さらに「LED発祥の地は名古屋」であることを教えていただいた。

現在LEDが照明器具として利用されるに至った背景には白色LEDの実現があるが、その重要な鍵は青色LEDの開発である。

1989年、名古屋大学工学部電子工学科の赤崎勇教授（当時）が、豊田合成株式会社と共同で、世界初となる窒化ガリウム（GaN）系p-n結合型青色LEDを開発した。それまでに赤色と緑色のLEDは開発されていたが、青色LEDの開発は難しいとされていた。しかし、この功績により青色LED

(4) アカリズム・フォーラムの設置

2008年11月、あかりビジネス検討会のメンバーを中心に「アカリズム・フォーラム」を設立した。

「あかりビジネス」は、将来の基幹産業の育成、観光資源の開発、人材育成など、地域の発展を目的としたテーマを持っているため、産官学が一体となった取り組みが求められる。立場の異なる団体や機関がアイデアを出しあい、事業を推進していく方策を検討していくための組織が「アカリズム・フォーラム」である。

(5) 名古屋開府400年祭「NAGOYAアカリナイト」

2009年度、いよいよあかりビジネスイベントの2010年度実施に向けて構想を具体化する検討に入ったが、一方で2010年に名古屋開府400年祭が計画

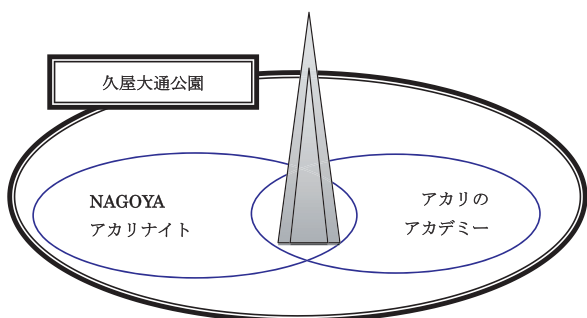
<アカリズム・フォーラムメンバー>2009年3月時点

- 会 長／大澤 和宏（名古屋テレビ塔株式会社社長）
- 副 会 長／水野 雅博（株式会社セントラルパーク社長）
- 幹 事／河田 正（NTT都市開発株式会社東海支店長）、森本 保彦（栄公園振興株式会社取締役社長）、中島 精隆（東海テレビ放送株式会社経営企画局次長兼企画部長）、林 幸雄（株式会社電広エージェンシー代表取締役社長）、後藤 保正（日本街路灯製造株式会社取締役社長）、小林 宏之（財団法人中部産業・地域活性化センター専務理事）
- 顧 問／多喜 義彦（システム・インテグレーション株式会社代表取締役）、高北 幸矢（名古屋造形大学学長）、落合 勉（M&Oデザイン事務所代表）
- オブザーバー／神谷 篤治（名古屋市観光推進室長）
- 事務局長／若山 宏（名古屋テレビ塔株式会社取締役営業部長）
- 事務局長補佐／徳田 達彦（財団法人中部産業・地域活性化センター調査部長）、榊原 元（財団法人中部産業・地域活性化センター総務部長）

されており、その中で2010年12月にアカリを使ったイベントが企画されていることがわかった。場所も同じ久屋大通公園であるため、名古屋市と調整の結果、お互いに連携をしてイベントを盛り上げていくことになった。アカリズム・フォーラムの多くのメンバーが核となって、名古屋市が開府400年祭の一環で設置する実行委員会が発足し、イベントの名称も「NAGOYAアカリナイト」として推進していくことになった。

「NAGOYAアカリナイト」では、豊田合成株式会社などの地元企業の協賛も得ながら、LEDを使ったアカリの巨大オブジェである「龍」、「獅子」、「虎」、「鳳凰」の展示、ツイッターのメッセージ送信を反映してテレビ塔のライトアップを行う「HEART TOWER」、アカリJAZZ、アカリのコンテストなどが企画された。

名古屋市のイベントはあくまで「お祭り」であり、産業振興や人材育成の観点については当財団が中心となって企画を分担し、「アカリのアカデミー」として実施することとなった。



### 3. 「アカリのアカデミー」実施内容

NAGOYAアカリナイトは冬の夜のイベントとして定着させることを目指していたので、3年とも冬に開催をしてきた。実際の開催期間は以下のとおりである。

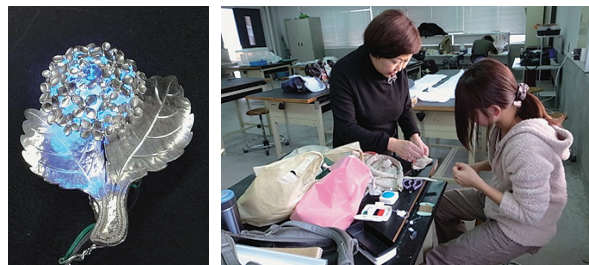
年度	実施期間
2010年度	2010/12/17～2010/12/25
2011年度	2011/11/25～2011/12/25
2012年度	2012/12/1～2013/2/17

「アカリのアカデミー」は「あかりを通じたまちづくり・産業育成・技術の発展」を目的に、名古屋工業大学大学院の伊藤孝紀准教授とともに企画内容を検討し、省エネで環境にも良い最先端のアカリ「LED」を用いた体験・学習・発表を軸とし、NAGOYAアカリナイトの開催期間と連携して、市民参加型のイベントを展開することとした。以降に年度ごとの実施内容を記す。

#### (1) 2010年度

##### ① LEDアクセサリーづくり

名古屋造形大学ジュエリーデザインコースの荒川芳秋客員教授、日本街路灯製造株式会社豊明工場研究開発室若松寿主席研究員、クラフトデザイナー水野誠子氏の協力を得て、豊田合成株式会社から提供をうけたLEDを使用してアクセサリーを制作した。LEDを組み込んだアクセサリーは世界でも珍しく、大学の授業の中で制作するのは初の試みと思われる。LEDアクセサリーは12点が完成し、LEDエシカル・フェアトレードファッションショーで発表を行った。



##### ② LED工作教室LEDでクリスマスランプをつくろう！

LEDを用いた工作を通じて、白熱灯とLEDと

の仕組みの違いを学ぶとともに、LEDをより身近に感じてもらい、ものづくりや地球環境への関心を高めることを目的とし、主な対象を小学生高学年として実施した。工作教室の運営は、パナソニック電気株式会社（当時）、特定非営利活動法人大ナゴヤ大学の協力を得て行った。合計6回の開催で参加者は54名であった。



### ③ LEDアカリフェス

地元出身、あるいは、地元で活動しているアーティストによる音楽と映画のイベントを開催し、若手アーティストの発表・表現の場をつくとともに、イルミネーションと音楽が連動した演出も行い、芸術とイルミネーションを体感できる場を創出することを目的に実施した。

5組のミュージシャンの演奏と3本のショートムービーの上映を行い、最後はショートムービーの監督によるトークセッションで締めくくった。



### ④ LEDエシカル&フェアトレード・ファッションショー

名古屋市栄地区のシンボルである名古屋テレビ塔の下で、国際協力・環境活動をファッションとつなぐ活動を行なっている原田さとみさんがプロデュースするエシカル&フェアトレード・ファッションショーと、「LEDアクセサリづくり」で完成したLEDアクセサリを組み合わせたファッションショーを開催した。LEDとフェアトレードは、環境への配慮がなされている共通点があり、双方を組み合わせることで、「環境」について考

える機会をつくることも目的としていた。トークセッションでは、名古屋造形大学の先生、学生が登壇し、制作時の苦労話やLEDアクセサリーの今後の可能性について語った。



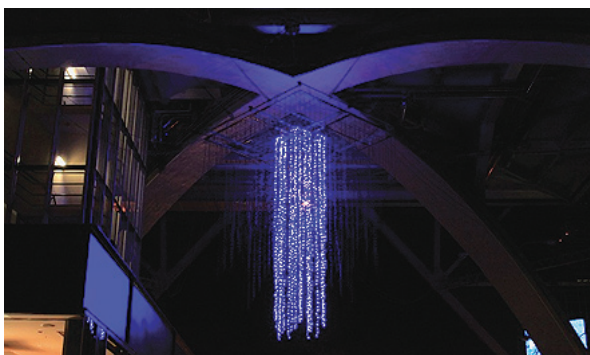
⑤ LEDトークナイト (pecha kucha Night NAGOYA)

LEDやアカリナイトの関係者、2010年に他のさまざまな行事を企画した関係者、名古屋を拠点に精力的に活動しているNPO関係者など、開府400年祭「NAGOYAアカリナイト」を締めくくるにふさわしいプレゼンターを招き、語り合うトークイベント (pecha kucha Night NAGOYA) を開催した。



⑥ LEDシャンデリア

LEDアカリフェス、LEDエンカル&フェアトレード・ファッションショー、LEDトークナイトを開催した名古屋テレビ塔タワースクエアには、名古屋工業大学大学院伊藤准教授がデザインした巨大LEDシャンデリアを「アカリのアカデミー」のシンボルとして設置した。豊田合成株式会社により提供された3万球の青色と白色のLEDを使用し、音楽に合わせた調光により空間演出が行われた。



⑦ LEDシンポジウム

当財団の前身である財団法人中部産業・地域活性化センター（CIRAC）がLED研究会を組織し、その成果として中部産業レポート「LED関連産業」を2010年12月に発刊した。これを機にLEDに関わる産業を創成・活性化することを目的に、技術開発の最新動向や照明のLED化動向、LED照明による産業振興などをテーマにしたシンポジ

ウムを開催した。地元の企業、大学などから130名を超える参加者があった。

CIRAC LED研究会 座長挨拶
三重大学大学院 工学研究科 教授 平松和政 氏
LED電球の現状と今後の開発への期待
名古屋大学大学院 工学研究科 教授 天野 浩 氏
照明のLED化動向 ～LED応用製品とその基準／法規～
豊田合成株式会社 オプトE事業部 主監 山中 脩 氏
LEDが巻き起こす130年ぶりの新照明改革 ～中部エリアから世界に発信する産業技術～
株式会社産業タイムズ 取締役社長 泉谷 渉 氏



（2）2011年度

2010年度の「NAGOYAアカリナイト」は名古屋開府400年祭の一つのコンテンツとして位置づけられていたが、2011年度は「NAGOYAアカリナイト2011」として単独開催となり、「アカリのアカデミー」以外のコンテンツとしては、ツイッターのメッセージ送信でテレビ塔のライトアップを行う「HEART TOWER」、「アカリのコンテスト」にコンテンツを絞り込んで、開催されることになった。

「アカリのアカデミー」は基本的に2010年度の

内容を踏襲し、「NAGOYAアカリナイト2011」と連携して、継続開催をすることでイベントの地元定着を試みた。

### ① LEDアクセサリーづくり

前年度に引き続き、LEDアクセサリーづくりを実施した。より実用的なアクセサリーをめざし、電池や配線が目立たないようアクセサリーに組み込んだ。アクセサリーは全部で15点完成し、LEDエシカル&フェアトレード・ファッションショーでの発表の後、名古屋テレビ塔1階で展示を行った。



### ② LED工作教室

2011年度は2つのコースを開催した。一つは2010年度と同じくパナソニック電気株式会社（当時）の「LEDを使ってクリスマスランプをつくろう!」。もう一つは高学年向きで、ロボット教室を運営しているロボベースが企画した、LEDのしくみや光の3原色を学び、はんだごてを用いて技術的な面にも触れてもらう「7色に輝く懐中電灯をつくって、LEDのしくみを学ぼう!」。合計で54名の小学生が参加した。



### ③ LEDアカリフェス

地元で活躍するアーティストによる音楽イベントを開催し、若手アーティストの表現の場をつくとともに、イルミネーションと音楽が連動した演出を行い、芸術とイルミネーションを体感できる場、賑わいの場の創出をめざした。



### ④ LEDエシカル・フェアトレードファッションショー

2010年度と同様にエシカル&フェアトレード・ファッションショーとLEDアクセサリーを組み合わせたファッションショーを開催した。LEDアクセサリーを制作した学生がそのアクセサリーを身につけてファッションショーに参加した。



⑤ LEDシャンデリア

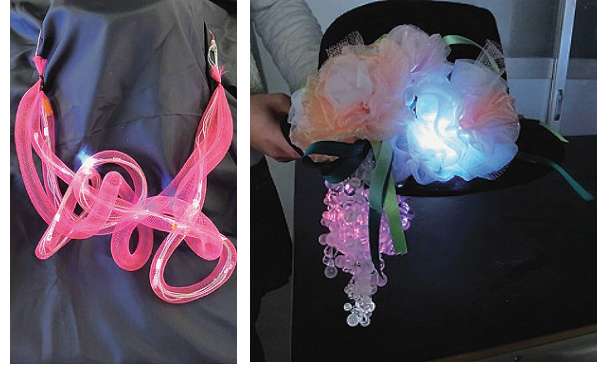
2010年度と同様テレビ塔下タワースクエアにLEDシャンデリアを設置し、「アカリのアカデミー」のシンボル確立をめざした。

(3) 2012年度

2012年度は「アカリのアカデミー」にとって大きな転換期となった。名古屋市の「NAGOYAアカリナイト」に関する予算がなくなるなか、NAGOYAアカリナイト実行委員会、アカリズム・フォーラムの両会議で調整をとり、久屋大通公園周辺の関係者で構成する「久屋大通発展会」も参画して運営することとした。

① LEDアクセサリづくり

アクセサリづくりも3年目となり、ノウハウの蓄積や学生の技術向上もあって、アクセサリの完成度が高くなった。22点のアクセサリが完成した。



② LED工作教室「クリスマスランプをつくろう！」

小学生高学年を対象に、パナソニック株式会社による円錐形のクリスマスランプの工作教室を行った。2つのLEDを組み合わせて自分の好きな色をつくり、楽しみながらLEDについて学べる内容とした。合計4回で約30名の参加があった。

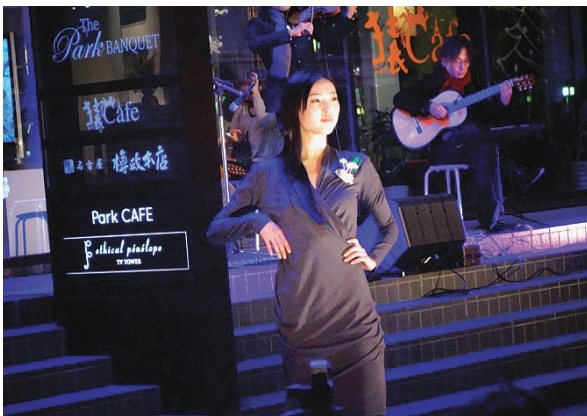


③ LEDエシカル&フェアトレード・ファッションショー

2010年度、2011年度と同様にエシカル&フェア



トレード・ファッションショーとLEDアクセサリを組み合わせたファッションショーを開催した。



#### ④ LEDシャンデリア

「アカリのアカデミー」のシンボルとして、LEDシャンデリアの展示を従来より延長し、約2ヶ月間の展示期間をとった。

## 4. おわりに

3年を一つの目安として「アカリのアカデミー」事業を継続実施してきたが、3年間を通しての大きな反省点は広報活動が思うようにできなかったことである。名古屋市、名古屋観光コンベンションビューロー、名古屋テレビ塔といった関係者のホームページ掲載や、チラシの配布、新聞記事の掲載などは行なわれたが、イベントとしての認知度の向上、大きな賑わいの創出にはなかなか結びつかなかった。

一方、LEDアクセサリーづくり、LED工作教室は地道ではあったが、人材育成、産業活性化という面で寄与できたのではないかと考える。特にLEDアクセサリーづくりは、日本街路灯製造株式会社の技術と名古屋造形大学のアクセサリデザインとの融合であり、産学連携の成果であった。LEDデザインの新たな可能性を示すことができたと考える。

なお、今後の「NAGOYAアカリナイト」の事務局については久屋大通公園発展会が行なっていくことになった。地元の方々自身の手でイベントを育てあげていただき、テレビ塔を中心とする久屋大通公園周辺地域の活性化につなげていただくことを強く願うものである。

末筆になってしまったが、「アカリのアカデミー」を実施した3年間やそれ以前の検討期間では非常に多くの方々にご支援、ご指導をいただいた。この場をかりて心より御礼を申し上げる。

## 5. 参考資料

- (1) 企業連携によるField Alliance あかりビジネスによる産業活性化調査 ビジネスプロ

デューサー養成講座 実践編（2008年3月  
財団法人中部産業活性化センター）

（2）あかりビジネスの事業化にむけた調査・研  
究（2009年3月 財団法人中部産業・地域活  
性化センター）

（3）名古屋開府400年祭公式記録（名古屋開府  
400年記念事業実行委員会）